

問1 北海道で生産される生乳の統計において、生産量の半分以上が飲用ではなくバターやチーズの原料となる加工用として利用されている主な理由を選びなさい。(2019年 静岡公立入試 類似)

- |  |   |  |  |
|--|---|--|--|
| 1. 関東などの大消費地から遠いという地理的条件があり、鮮度が求められる飲用よりも保存の利く乳製品への加工が適しているため。 | 2. 北海道の気候は夏に気温が上がりすぎるため、生乳の鮮度を保つため道外へ輸送することが技術的に不可能であるため。 | 3. 地産地消の考えに基づき、北海道内で生産された生乳は道内での飲用分を除き、すべて加工品にしてから輸出する義務があるため。 | 4. 大規模な畑作と組み合わせた混合農業が盛んであり、生乳をそのまま出荷するよりも肥料として活用する割合が高いから。 |
|--|---|--|--|

問2 日本の乳牛飼育において、飲用として出荷される牛乳の生産地が、千葉県、神奈川県、愛知県といった大都市の周辺に多く見られる理由として、最も適切な説明はどれですか。(2022年 埼玉県公立入試 類似)

- |  |  |  |  |
|--|--|--|--|
| 1. 飲用牛乳は加工品に比べて製品の鮮度を保つことが重視されるため、大消費地に近接した地域で生産されている。 | 2. 大都市の周辺は北海道に比べて土地代が安く、乳牛を放牧するための広大な土地を確保しやすい環境にある。 | 3. 飲用牛乳は加工用生乳に比べて重量が軽く、輸送コストがほとんどかからないため、あえて都市部で生産されている。 | 4. 法律によって、飲用牛乳は消費地と同じ地方自治体の中で生産・処理しなければならないと定められている。 |
|--|--|--|--|

問3 北海道の北東側に位置する海域では、冬季になるとシベリア沿岸から流れてきた氷が接岸し、一面が白く覆われる光景が見られます。この海域の名称と、押し寄せる氷の名称の組み合わせとして正しいものはどれですか。(2018年 山形公立入試 類似)

- |                |             |             |                |
|----------------|-------------|-------------|----------------|
| 1. オホーツク海 — 流氷 | 2. 日本海 — 流氷 | 3. 太平洋 — 樹氷 | 4. オホーツク海 — 樹氷 |
|----------------|-------------|-------------|----------------|

問4 札幌市の中心部で、道路が垂直・水平に交わり区画が整理された「格子状の街路」が採用された背景として、最も適切な説明はどれですか。(2020年 島根公立入試 類似)

- |  |  |   |   |
|--|--|---|---|
| 1. 明治政府の開拓使が、広大な土地を効率的に管理・開発するために計画的な都市建設を行ったため。 | 2. 江戸時代の城下町の構造を引き継ぎ、敵の侵入を防ぐために見通しの良い道路を配置したため。 | 3. 自然発生的に形成された集落が、人口増加に伴って地形に合わせ四方に拡大していったため。 | 4. 広場を中心に道路が四方八方へ伸びる、中世ヨーロッパの都市計画をそのまま導入したため。 |
|--|--|---|---|

問5 積雪の多い地域の道路で見られる、道路の上方に矢印を掲げた「固定式視線誘導柱」という標識について、その仕組みや必要とされる背景を説明したものとして適切なものはどれですか。(2021年 兵庫公立入試 類似)

- |  |   |   |   |
|--|---|---|---|
| 1. 道路の端(路肩)の位置を高い場所から指し示すことで、地面が雪に覆われた状態でも車道の範囲を知らせる仕組み。 | 2. 路面が凍結しやすい場所に設置され、気温が一定以下になると矢印が自動的に発光してスリップ注意を促す仕組み。 | 3. 地吹雪による視界不良を防ぐために、道路脇に設置された防雪柵が作動する範囲を運転者に伝える仕組み。 | 4. 雪の重みによる路面の変形を確認するため、道路の測量地点を高い位置から特定しやすくする仕組み。 |
|--|---|---|---|

問6 北海道の石狩平野において、かつて広範囲にわたって見られた、水分を多く含み植物の遺体が分解されずに積み重なってできた土地を何といいますか。この土地はもともと農業には適さない湿地帯でしたが、客土などの土地改良により現在は大規模な稲作地帯となっています。(2021年 神奈川県公立入試 類似)

- |        |          |        |           |
|--------|----------|--------|-----------|
| 1. 泥炭地 | 2. シラス台地 | 3. 干拓地 | 4. カルスト地形 |
|--------|----------|--------|-----------|

問7 北海道の農業産出額において、畜産が全体の中央値や平均を大きく上回り、5割を超える高い割合を占めている理由として最も適切な説明はどれですか。(2016年 岩手県公立入試 類似)

- |   |   |   |  |
|---|---|---|--|
| 1. 冷涼な気候と広大な土地を活かし、酪農や肉用牛の飼育が大規模に行われているため | 2. 都市近郊の立地を活かし、新鮮な豚肉や鶏肉を供給する施設園芸が発達したため | 3. 水田単作地帯から、野菜や果樹を中心とした多角経営への転換が最も進んだため | 4. 温暖な気候を利用して、牛の放牧と米の二毛作を組み合わせた生産が行われているため |
|---|---|---|--|

問8 北海道の北端に位置し、中心部に利尻山という火山をもつ人口約5000人の島々では、その豊かな自然景観が国立公園に指定されています。この地域の自然環境を活かした観光業とともに、古くから地域経済を支えてきた、高級ブランドとしても名高い特徴的な産業はどれですか。(2019年 東京都公立入試 類似)

- |                          |                          |                              |                              |
|--------------------------|--------------------------|------------------------------|------------------------------|
| 1. 寒冷な海域の特性を活かした昆布の養殖や漁業 | 2. 温暖な気候を利用したサトウキビの生産と加工 | 3. 冷涼な夏の気候を活かしたレタスなどの高原野菜の栽培 | 4. かつての金山跡を中心とした歴史的遺産による観光開発 |
|--------------------------|--------------------------|------------------------------|------------------------------|

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 関東などの大消費地から遠いという地理的条件があり、鮮度が求められる飲用よりも保存の利く乳製品への加工が適しているため。	北海道の酪農は、根釧台地などを中心に日本最大の生乳生産量を誇ります。しかし、主な消費地である関東や関西などの都市部から物理的に距離があるため、鮮度が重視される飲用牛乳としてすべてを供給するには輸送コストや時間の制約が生じます。そのため、保存性が高く、長距離輸送にも適したバターやチーズといった乳製品の原料（加工用生乳）としての利用が大きな割合を占めています。
問2	<b>答え 1</b> 飲用牛乳は加工品に比べて製品の鮮度を保つことが重視されるため、大消費地に近接した地域で生産されている。	生乳の生産と流通には、製品の性質に応じた明確な特徴がある。牛乳（飲用）は液体であり、品質を維持するために鮮度が極めて重要視される。そのため、輸送時間を短縮できる大消費地の近郊で生産・処理される傾向が強い。一方、バターやチーズなどの原料となる加工用生乳は、広大な土地を持つ北海道が生産の約9割を占めている。加工品は飲用牛乳に比べて保存性が高く、遠方からの輸送にも適しているため、土地条件の有利な北海道での大規模生産が可能となっている。
問3	<b>答え 1</b> オホーツク海 — 流氷	北海道の北東部に面するオホーツク海では、冬になるとアムール川河口付近で凍った海水が風や海流に乗って南下し、流氷となって海岸に到達します。これに対し、日本海側は対馬海流（暖流）の影響を受けるため流氷は見られず、樹氷は山地の樹木に水分が凍り付く現象を指します。
問4	<b>答え 1</b> 明治政府の開拓使が、広大な土地を効率的に管理・開発するために計画的な都市建設を行ったため。	札幌は1869年に設置された開拓使によって、何も無い原野から計画的に建設された人工的な都市です。アメリカの都市計画や京都の条坊制を参考に、行政機能や居住区を効率的に配置し、交通の利便性を高める目的で格子状の街路が導入されました。これは、古い歴史を持つ都市が地形や防衛上の理由から不規則な街路を持つことが多いのと対照的です。
問5	<b>答え 1</b> 道路の端（路肩）の位置を高い場所から指し示すことで、地面が雪に覆われた状態でも車道の範囲を知らせる仕組み。	積雪寒冷地における交通の安全を確保するための工夫を問う問題です。地面に設置する通常の反射板や白線だけでは、深い積雪や激しい吹雪（地吹雪）の際に視認できなくなります。固定式の標識を高い位置から吊るすように設置することで、雪の影響を受けずに「ここから先は路肩である」という情報を運転者に提供しています。
問6	<b>答え 1</b> 泥炭地	石狩川流域に広がる石狩平野の低地には、寒冷な気候により植物が完全に分解されず、炭化した状態で堆積した「泥炭地」が広く分布していました。この土地は非常に水はけが悪く、酸性度も高いため農業には不向きでしたが、明治時代以降、大規模な排水路の整備や、外部から良質な土を運び入れる「客土（きゃくど）」といった土地改良を行うことで、日本を代表する稲作地帯へと変貌を遂げました。
問7	<b>答え 1</b> 冷涼な気候と広大な土地を活かし、酪農や肉用牛の飼育が大規模に行われているため	北海道の農業は、1戸あたりの耕地面積が非常に広く、大型機械を用いた効率的な生産が行われています。特に冷涼な気候は乳牛の飼育に適しており、広大な原野や草地を利用した大規模な酪農が営まれていることから、産出額に占める畜産の割合が非常に高くなっています。これに対して、都市近郊型農業や温暖な気候を利用した促成栽培は、他の地域の特色です。
問8	<b>答え 1</b> 寒冷な海域の特性を活かした昆布の養殖や漁業	利尻島や礼文島は、美しい火山（利尻山）を中心とする景観から利尻礼文サロベツ国立公園に指定されています。この地域では、冷たい海流に育まれた良質な昆布が「利尻昆布」として全国的なブランドとなっており、漁業や養殖業が島にとって欠かせない基幹産業です。近年は、この伝統ある産業を維持するために、若手漁師の育成などの後継者支援も積極的に行われています。